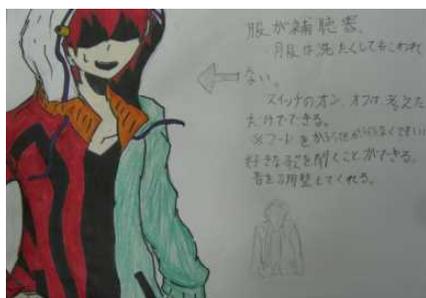


今年度の自立活動の取組から

その1・・・あったらいいな、こんな補聴器、人工内耳（小学部）

小学部の自立活動の授業では「自分が着けてみたい補聴器を考えよう」という学習を行いました。こういう機能があったらいいとか、大人になって着けてみたいと思う補聴器や人工内耳を自由な発想で絵にする活動です。過去には、充電器が自動的に人工内耳を探索する機能があるものや遠隔操作で管理できる補聴器など様々な補聴器や人工内耳が考えられています。4年前、2年前に続いて3回目の活動となる児童は、発想にも絵にも「進化」が見られ、ある児童は「1億5千万円」の補聴器を発表するなど力作がそろいました。補聴器や人工内耳に求める機能として「目立たない」「毎日の使用が面倒でない」「多機能である」ことのほか、紛失や電池切れなどの「自分の失敗をカバーしてくれる」ことなど、一人一人求めるものが違い、大変興味深い活動になりました。



絵は聴能言語室の廊下に掲示する予定です。機会がありましたら是非、小学部児童の作品を御覧ください。

その2 … ネットについて (中学部)

中学部2年生の自立活動の授業では、ネットについて学習を行いました。携帯端末を用いたコミュニケーションツールは、聞こえる人と聞こえない人との垣根を取り払う勢いで年々進歩しています。反面、特にSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の利用を始めとして、次々と新しい知識が要求されていると感じます。



この授業では、気持ちを文字にして表現することの伝わりにくさといった文字コミュニケーションの難しさを体験的に考える活動の他に、不用意な書き込みや個人情報の流出、そして成りすましの被害など、モラルに関することや危険性とそれを防止するための心構えについて学

習しました。特に、ツールの利便性に隠れがちなりスクについては、当の生徒だけでなく関わる大人も研修が必要だと改めて感じました。

番外編 … 小学部の廊下の掲示より



小学部のとある教室に貼ってある掲示です。廊下側に貼ってあるのを先日見つけました。とある学年の担任の先生が作られたものようです。

みみちゃん担当者は「自分も相手も大切にしよう」というところがとても大切だなと思いました。いろいろな人と関わり、「相手と分かり合う」ためには最も必要なことですね。

今年も「耳の日」イベントに協力します。

毎年恒例である松山市社会福祉協議会主催の「耳の日」イベントは、3月5日(日)に、松山市若草町の松山市総合福祉センターで行われます。本校の学校紹介のコーナーも作っていただけの予定です。

今年は、県内の高等学校や幼稚園による手話パフォーマンスや、えひめ国体のイメージソング「えがおは君のためにある」の手話ソングの講習会など楽しい催しが企画されています。県内の難聴のある幼児児童生徒の参加も見込まれています。是非、御参加ください。

電池の交換時期について調べてみました

補聴器ユーザーであるみみちゃん担当者の電池の交換時期を約10ヶ月間にわたり調べてみましたので報告します。

4月: 11日間、14日間	9月: 16日間、11日間
5月: 14日間、14日間	10月: 13日間、14日間、14日間
6月: 13日間、11日間	11月: 13日間、14日間
7月: 13日間、12日間、16日間	12月: 14日間、15日間
8月: 14日間、12日間	1月: 12日間、15日間

※いずれも使用開始日からの日数です。翌月にまたがる場合もあります。

空気電池は、①乾燥、②二酸化炭素の増加、③低温に弱いと言われてい
ます。そのためこの条件がそろそろ冬に減りが早くなるのですが、今回は極
端な傾向は見られませんでした。ただ、寒くなってくると、電池がなかな
かすぐに使えるようになりませんでした。社団法人電池工業会の資料では、

- ① 乾燥時は、電池寿命が54～65%に短縮
- ② 換気をせずに二酸化炭素が増加している場合は、64～77%に短縮
- ③ 電池のシールをはがしても、発電が始まるまでに1～2分程かかる
とされています。まだまだ寒さが続きます。予備の電池を準備しましょう。

寄宿舎の屋内信号装置について

本校の寄宿舎には、非常変災時の通報設備
として、学校の各教棟と同様にパトライトが
設置されています。パトライトは各部屋にあ
り、火災報知器の非常ベルと連動して作動し
ます(右の写真)。

今回、そのパトライトに加え、屋内信号装
置を設置し、非常変災に対して万全を期すこ
とになりました(下の写真)。



現在、寄宿舎には指導員1名と舎監3名の
聴覚障がい教職員が業務に従事しています。
起きている間はこれまでの設備でも対応でき
ますが、就寝後の対応をより安全かつ的確に
行うためにと設置されました。

みみちゃん担当者も、設置当日に舎監とし
て寄宿舎に泊まり、非常ベルと連動してバイ
ブレーションが反応する一連の流れを実際に
体験してみました。

現在の屋外信号装置は、一人一人のニー
ズに合わせ、赤ちゃんの声に反応するセンサ
ーや玄関の呼び出し音に反応するセンサーな
ど、様々な組み合わせができるようです。福
祉での給付は身体障害者手帳2級で同居する
人が聴覚障がい者のみと条件がありますが、
自費での購入も十分検討に値すると感じま
した。

【本の紹介】

トガニ 幼き瞳の告発

孔枝泳 著 蓮池薫 訳
新潮社 刊 税込1728円 (2012年)

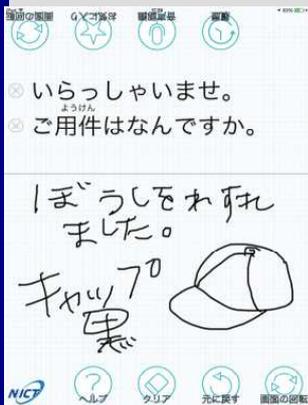


ずいぶん前の刊行ですが、みみちゃん担当者は今年度の訪問支援先の学校の学校生活支援員さんにこの本のことを教わりました。みなさんは御存知でしたか？聴覚障がい者への犯罪に対して、科せられた刑があまりにも軽く社会問題にもなった事件をベースにした作品です。韓国では映画化もされました。読後感は、決して良くはありません。「トガニ」とは朝鮮語で「るつぽ」を意味するそうです。訳は蓮池薫さんです。

【アプリケーションの紹介】

コミュニケーションアプリ「スピーチキャンパス」

「こえとら」を開発した国立研究開発法人情報通信研究機構から、新しいコミュニケーションアプリが出ました。このSpeechCanvas（スピーチキャンパス）は、聴覚障がい者と聴者との会話を、音声認識技術を使ってサポートするアプリです。聴者は音声で話し、聴覚障がい者は筆談で応えることで、円滑なコミュニケーションができます。「こえとら」は、持ち歩いて会話するときの使用を、「SpeechCanvas」は、聴覚障がい者が利用する事務所や店舗などでの使用を想定している点が異なります。iOS版とAndroid版の両方があります。

**編集後記**

昨年の12月辺りから、県内の聴覚障がいのある児童生徒の「作文」での活躍が相次ぎました。中学生人権作文コンテスト県大会では、入賞者12名のうち難聴の中学生2名が入賞し、作文が愛媛新聞にも掲載されました。また、内閣府主催の「心の輪を広げる体験作文」には、県内の小学6年生と高校1年生の作品が佳作になりました。この作文はインターネットで見ることができます(<http://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/28sakuhinshu/index.html>)。また、本校では恒例行事となった中学部のスピーチコンテストもありました。自分で原稿を作成し、それを覚えて発表をするという活動を通して、一人一人が1年前に比べて大きく成長しているのを感じました。素晴らしかったです。日頃の思いを形にすることは、大変な労力が必要です。でも形にすることで自分の気持ちや行動を確かめることにもなります。もうすぐ、一つの区切りを迎える時期になります。いろいろな機会に思いを形にしてみたいかがでしょうか。